

第五十一回

相模女子大学学芸学部日本語日本文学科

卒業制作展

併催 書道ゼミ三年書作展

書道部展

会期 令和八年二月二十日(火)～二十六日(月)

会場 第一会場 相模女子大学七号館一階ホール

第二会場 相模大野ギャラリー

○拡大臨書 平安・藤原佐理「離洛帖」

昔者之敵汝之反者多動靜也學之無
 其於在者之也就中敵下甲和事汝
 性或色友之亦不余之為夷之才通也
 休也侵形出有作世以寸方日本到
 是未言泊入場之日未有一之者府
 汝也下中子海止之也

藤原佐理

(271 cm × 104.2 cm)

○拡大臨書 後漢「石門頌」

惟以南面位川澤股躬有所注川有所通
 余台也川其澤南隆八方所達益域為充
 高祖受命興於漢中道由子牛出散人
 崇建定帝位以漢誠篤後以子牛蓋題此
 難更隨圍晉復通堂光凡此四道城亭尤
 艱至於永平其者四率詔書開余

帆南臨

(272.3 cm × 138.3 cm)



本年度卒業生

(
137
cm
×
274.6
cm
)



○創作 高村光太郎『折々のことば』より

○擴大臨書 北宋·米芾「苕溪詩卷」

知窮多念道，貧非理生拙。病覺養
 心功小，困祛留客青。冥不厭鴻秋帆，
 尋賀老，載酒過江東。仕倦成流落，
 遊頻慣轉蓬。熱來隨意住，涼至逐
 緣東。入境親踈集，他鄉彼此同。暖衣
 並食飽，但覺愧梁鴻。旅食緣交駐，
 浮家為興來。白田荆水話襟，向卞
 峯開過刺如尋。戴遊梁定賦，枚漁
 歎堪盡。委又有魯公陪，密友從春折。
 紅薇過夏榮，圍板殊自得。願我若
 含情，漫有蘭隨色。寧無石對聲，却
 憐皎月依。舊滿船行。

瑞生臨

(226.9 cm × 53 cm × 4 幅)

○擴大臨書 北魏「元楨墓誌銘」

使持節鎮北大將軍相州刺史南
 安王楨恭宗之第十一子皇上帝之
 從祖也。惟王體暉霄赫，列耀星華。
 茂德基於紫墀，凝搃形於天德。用
 能端玉河山，聲金岳鎮。爰在知命
 孝性，謀越是使。庶挨歸仁，帝宗修
 式。暨寶衡從御，大許羣言。王應機
 轡，發首輶軋。表遂乃寵彰，司勳賞
 延金石而天不遺德。

瑞生臨

(223 cm × 155.3 cm)

○創作 三好達治詩「冬の日」より



(
225.9
cm
×
208.5
cm
)

第一会場風景



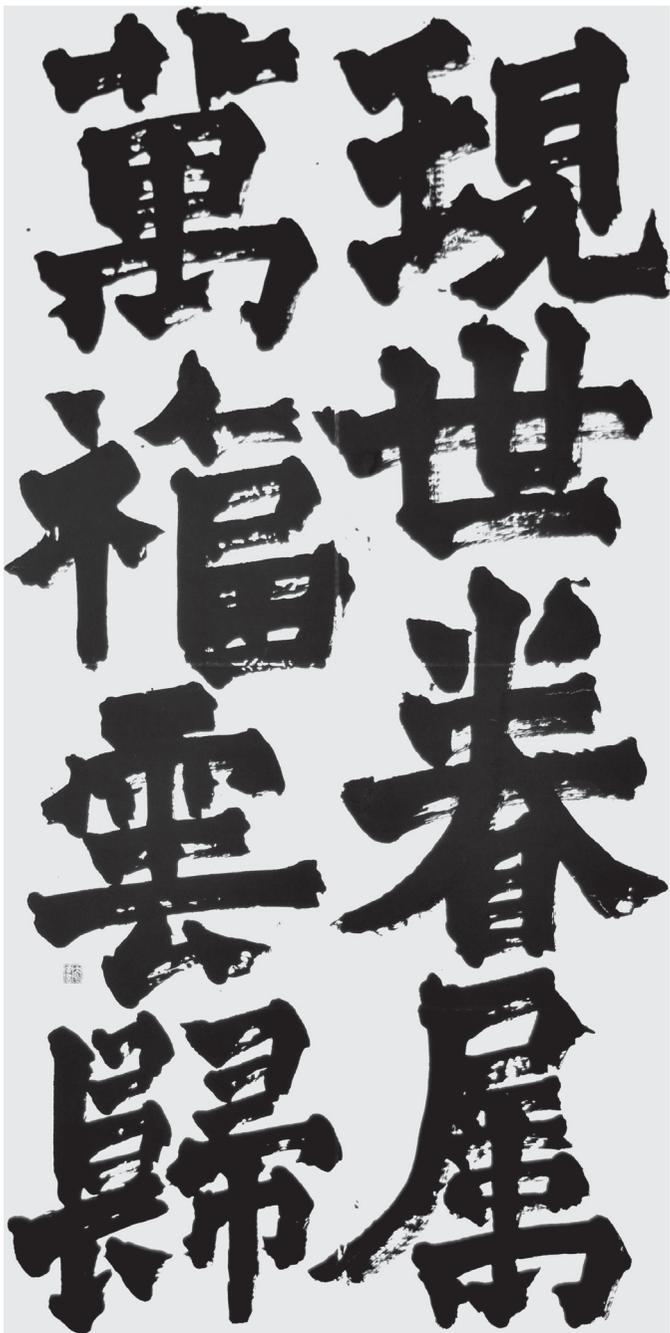
大川 花音

○拡大臨書 前漢「神鳥傳」



(273.6 cm × 34.5 cm × 6 幅)

○拡大臨書 北魏・蕭頭慶「孫秋生造像記」



(272.1 cm × 137 cm)



第二会場風景

(138
cm
×
276.3
cm)



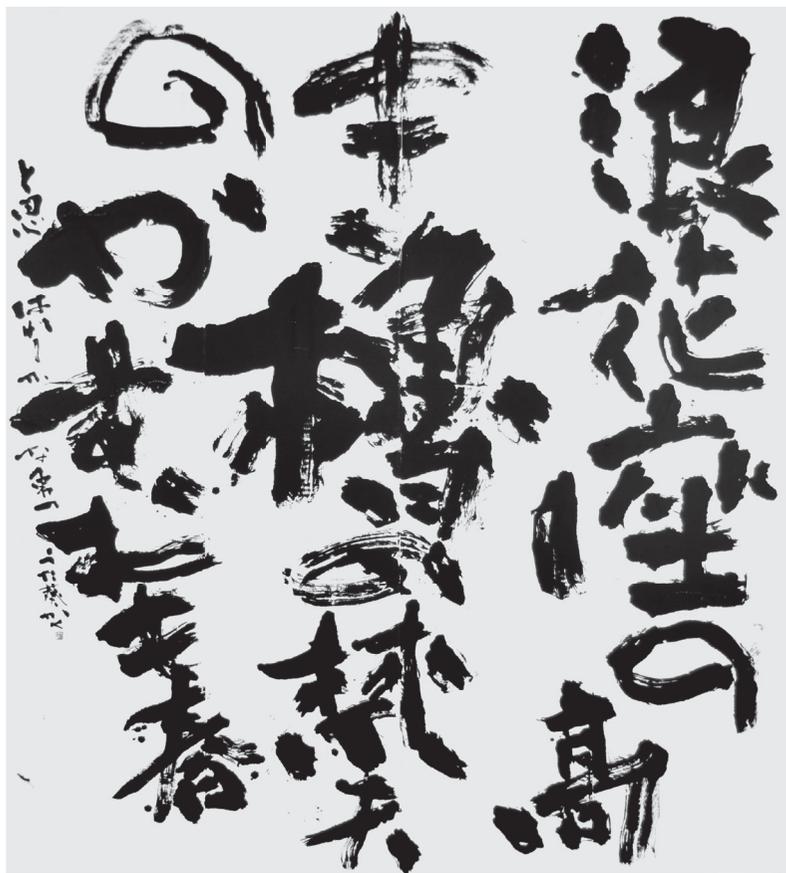
○創作 高濱虚子『五百五十句』より

松風閣

依山築閣見平
川夜闌箕斗插
屋椽我未名之
意適然老松魁
梧數百年斧
斤所斲今交天
風鳴媧皇五十
弦洗耳不須
菩薩泉嘉
三子甚好賢
力貧買酒醉
此筵夜雨鳴廊
到曉懸相看
不歸卧僧檀泉

枯石燥復潺湲
山川光暉乃我
妍野僧早早
饑不能飽曉
見寒溪有炊
煙東坡道人
已沈泉張侯何
時到眼前釣
臺驚濤可
晝眠怡亭看
篆蛟龍纏安
得此身脫拘繫
舟載諸友長
周旋

○創作 吉井勇 『浪華風流』より



(228.7
cm × 209.8
cm)

○拡大臨書 唐・顔真卿「顔氏家廟碑」

隋司經校書東宮
學士率子弟奉迎
義旗於長春宮招
小州拜儀同博學
善屬文自為父集
序國史稱温大雅
在隋與思魯同事
東宮彦博與愨楚
同直內史省彦將
與遊秦同典校祕
閣二家兄弟各為
一時人物之選少
時學業

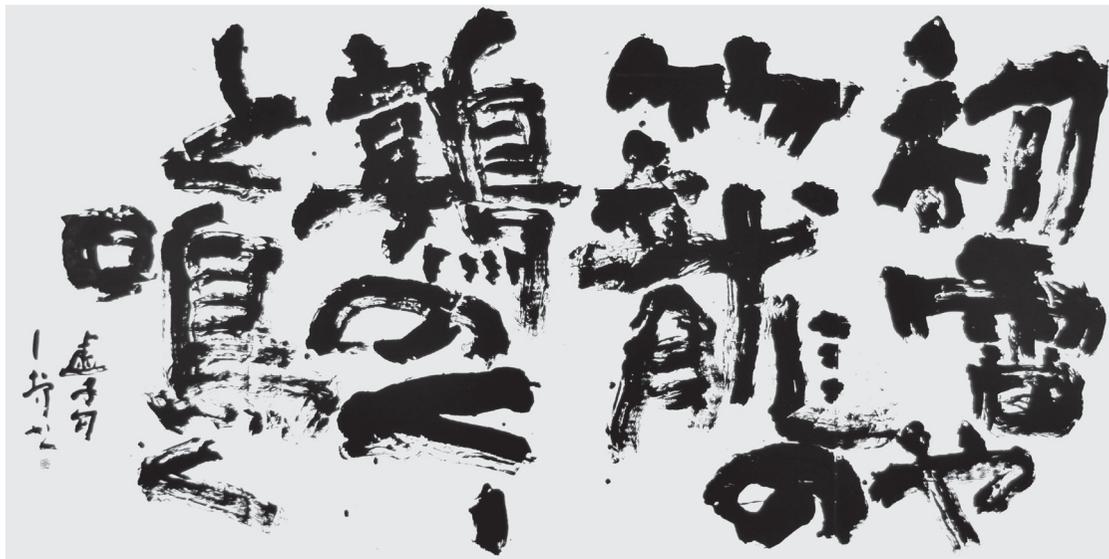
蔡臨書

(138.6
cm × 258
cm)

君諱遷字公方陳留己吾人也君
 出先出自有周周宣王中興有張
 仲以孝友為行披覽詩雅煥知其
 祖高帝龍興有張良善用蕭蕭在
 帷幕出內決勝負千里出外析珪
 於留文景出間有張釋出建忠弼
 出謀帝遊上林問禽狩所有苑令
 不對更問番夫番夫事對於是進
 番夫為令令退為番夫釋出議為
 不可苑令有公卿出才番夫喋喋
 小吏正社稷出重上從言孝武時
 有張騫廣通風俗開屯畿寓南苞
 八纒西羈六戎北虞及狄東勤九
 夷荒遠既殞各貢所有張是輔漢
 世載其德矣既且於君蓋其纏綿
 續戎鴻緒牧守相係不殞高問孝
 弟於家中騫於朝治京氏參聽麗
 擢略藝於從畋少為郡吏

葉臨

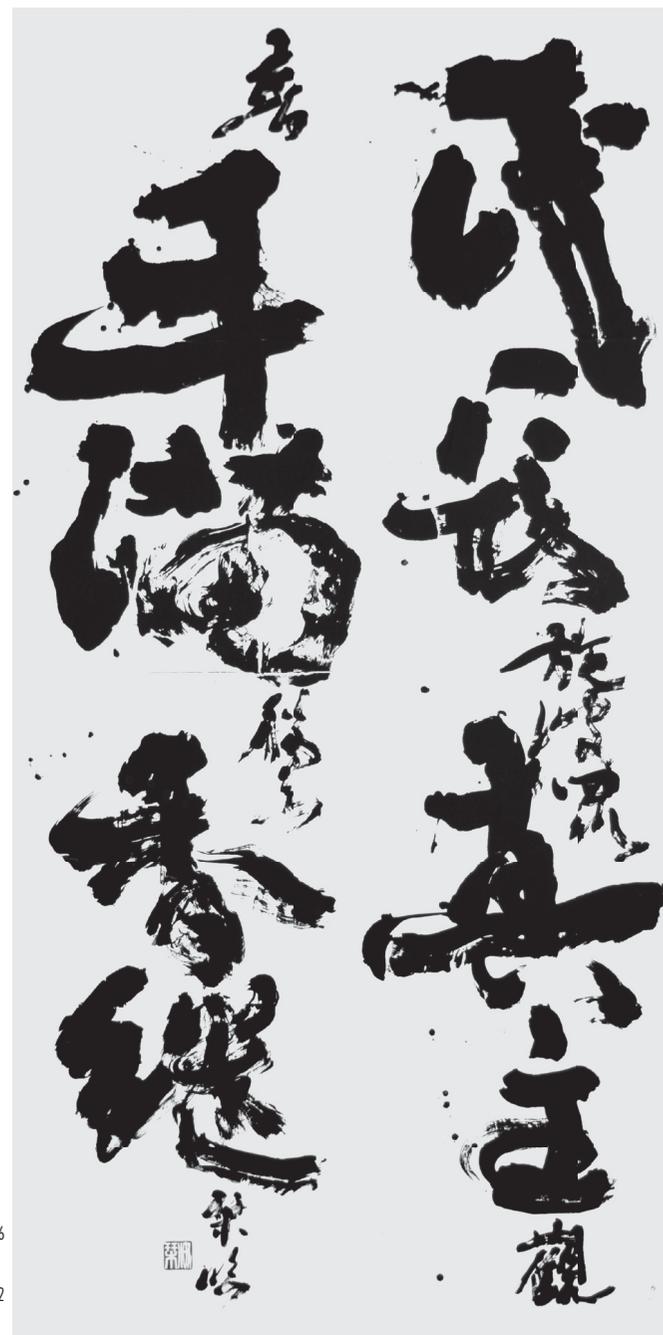
(
136.3
cm ×
275.7
cm
)



○創作 高濱虚子句

○拡大臨書 平安・空海「灌頂記」

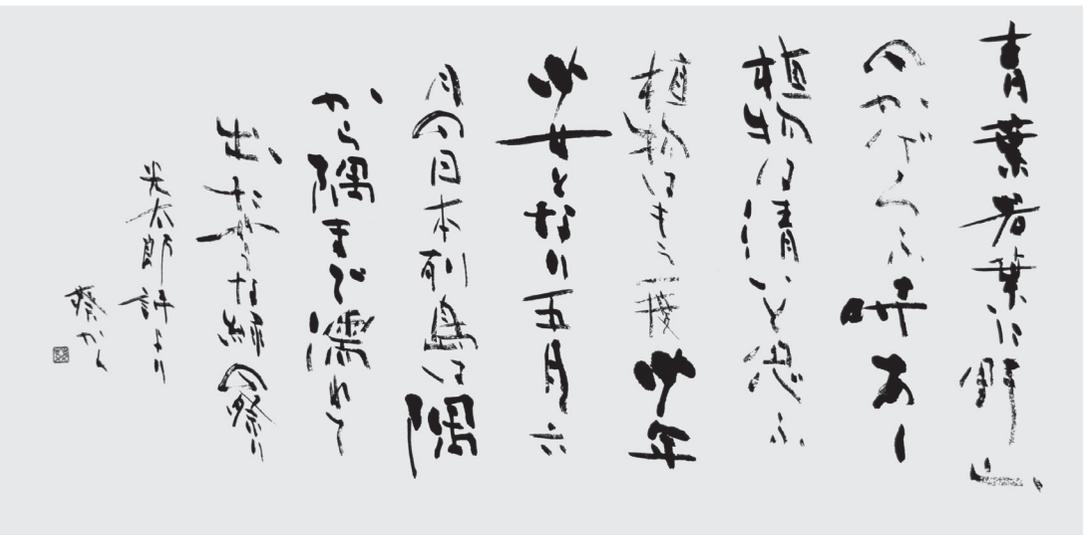
(
277.6
cm ×
135.2
cm
)



共同制作

宮崎 葵

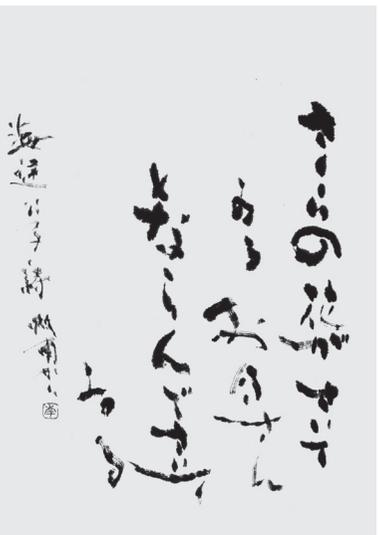
高村光太郎「新緑の頃」より



(34.7 cm × 69.3 cm)

伊藤 帆南

海達公子詩より



(35 cm × 24.7 cm)

◇共同制作テーマ「春の自然」

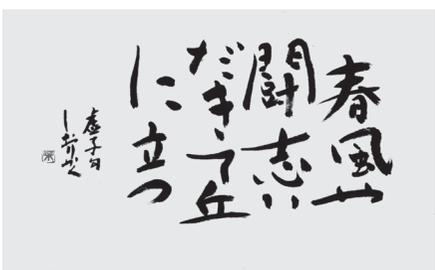
「春の自然」の柔らかさや美しさ、華やかさ、壮大さなどを字形や墨の濃淡、線質などで表現し、テーマにふさわしい作品となるよう工夫しました。

碓井 瑞生 牛島古藤歌



(34.8 cm × 45.6 cm)

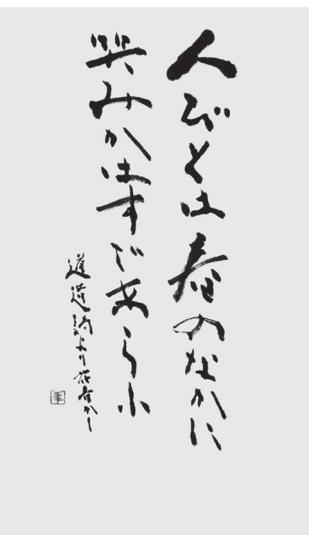
初山 栞 高濱虚子句



(14.8 cm × 21.8 cm)

大川 花音

立原道造詩「浅き春に寄せて」より



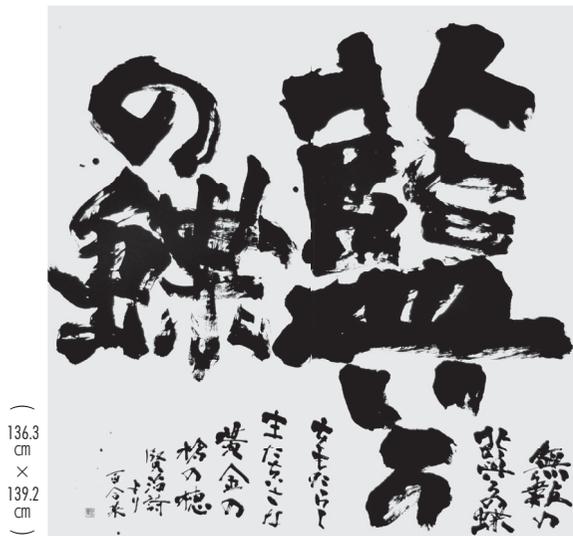
(34 cm × 22 cm)

書道ゼミ三年書作展

書道実習Ⅹ（漢字かな交じりⅡ）で課題とした、大字作品に挑戦したものである。

三坂 百合菜

宮澤賢治詩「オホーツク挽歌」より



(136.3 cm × 139.2 cm)

齊藤 礼奈

宮澤賢治「あの雲がアツトラクテヴだといふのかね」より



(69.5 cm × 136.5 cm)

小島 佑月

宮澤賢治詩「オホーツク挽歌」より



(69.4 cm × 140.3 cm)

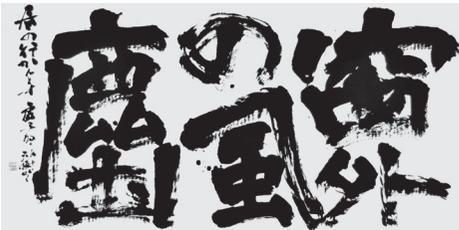
山崎 愛海 正岡子規句



(229.4 cm × 52.7 cm)

神保 沙樹

高濱虚子句



(88.3 cm × 177.5 cm)

鷺谷 桃香 宮澤賢治詩「有明」より



(226.1 cm × 53 cm)

高橋 真凜

正岡子規句



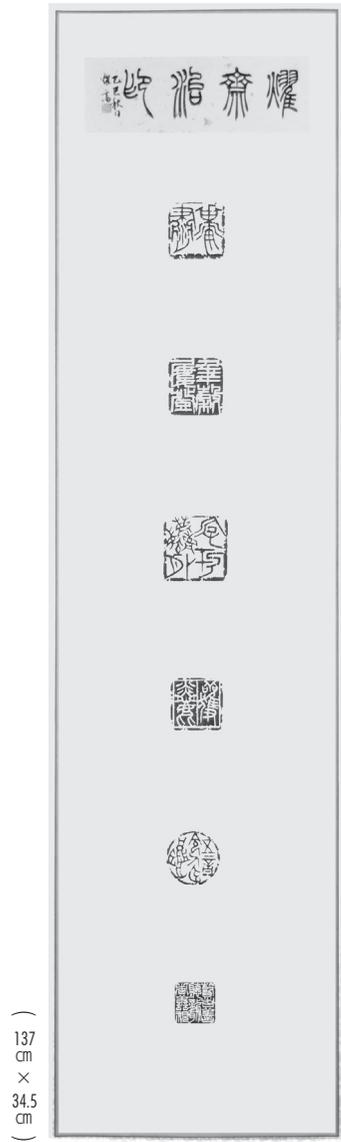
(69.2 cm × 136.9 cm)

榊原 雪花 宮澤賢治詩「日輪と太市」より



(230.2 cm × 52.6 cm)

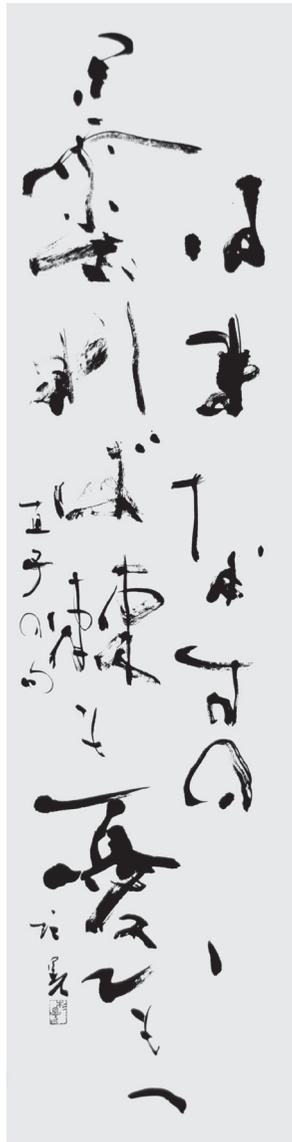
贊助出品



(137 cm × 34.5 cm)

滑田 耀斎 先生

(137 cm × 34.5 cm)



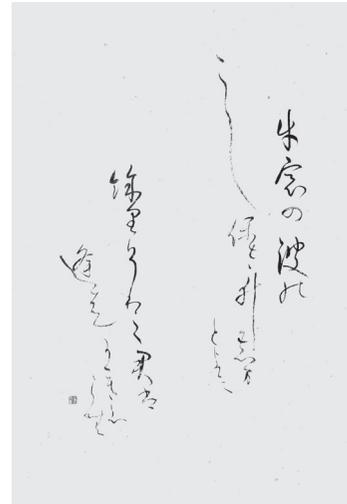
種家 杉晃 先生

(118 cm × 27.5 cm)



足立 夏鈴 先生

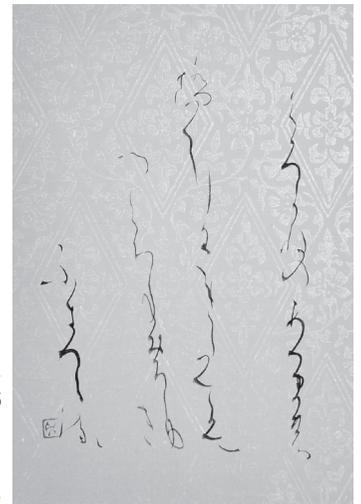
(16 cm × 33 cm)



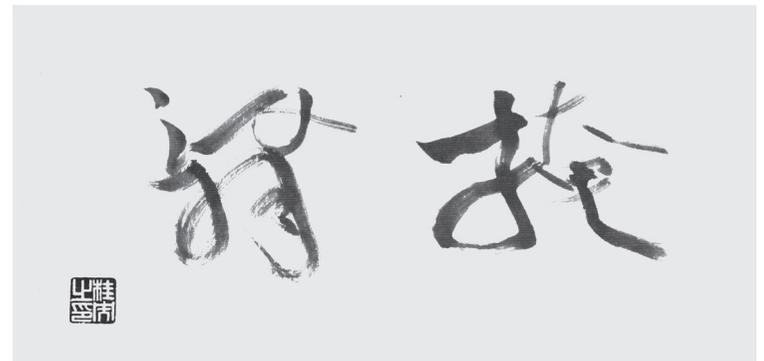
(36 cm × 25 cm)

津村 幸恵 先生

(23.5 cm × 16 cm)



谷口 成孝 先生



早川 桂央 先生

祝 辞

下田 章平

二〇二四年末の台湾研修旅行には、卒業生全員で揃って行くことができた。そして、折しも国際情勢が大きく変化する時と重なり、行くことすら当初は危ぶまれたが、台湾に着くと微塵もそのような状況は感じられず、いつもの南国の穏やかな温和な雰囲気漂っていた。今回の卒業生は三年次で台湾に行くことができたため、卒業制作では大いに刺激を受けたものと思う。

現代では書の古典の多くは図録で見ることができるようになったが、実際の書の墨蹟に接してその息吹を感じ取らなければ、書を学んだことにはならないと、私は思う。墨蹟のことを俗に「肉筆」ともいう。まさに墨蹟を見ると、古人の息づかいが私たちに肉迫し、創作意欲をかき立てられる。書の醍醐味は書の鑑賞にあるといっても過言ではない。

卒業制作展は二会場で開催したため、今年も二作品を出品した。第一会場には、大橋愛子さんの「花びらは冷たいけれど触りたい」、第二会場には、川端茅舎の「飛燕鳴けり馬鈴薯の花咲く丘に」。いずれも小品である。大橋さんは私の研究にもご協力頂いている方で、俳人でもある。いつも俳誌『藍』をご寄贈頂き、本句はその六〇六号（二〇二五年四月一日）に掲載されたものである。前者は句意に合わせて淡墨で、後者は行書を少し織り交ぜてやや濃い墨で書いて見た。墨はいずれも同じもの。磨り方次第で随分と墨は表情を変えるものと改めて気づかされた。

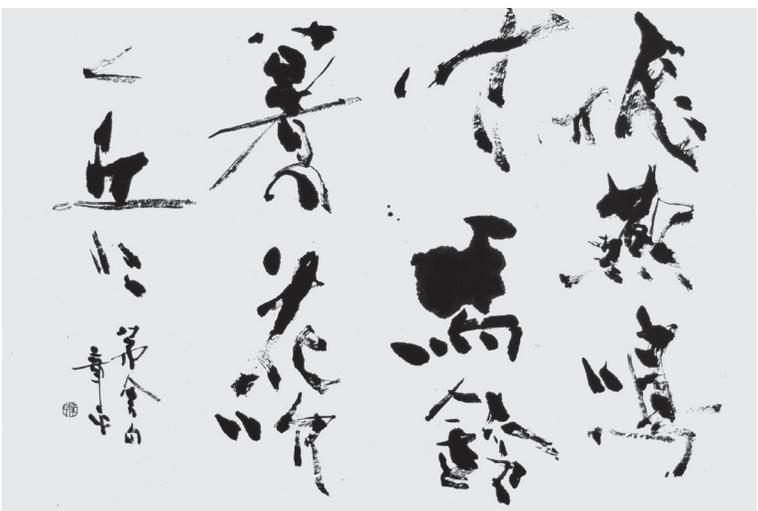
ところで、日文の卒業生は、大学院に進学する者、一般企業に就職する者、教職に進む者と、他学部・他学科に比べて進路先は多種多様である。日文では、どのゼミナールに所属しても、論理的思考力や日本語運用能力のスキルを磨くことができるが、それが大いに就職活動で役に立ち、評価されているものと思う。今年から始まった新カリキュラムでは、このような日文で磨くことのできるスキルを「コア科目」（キャリア支援科目）として明確にカリキュラムに位置づけられている。

第五十一回の卒業制作展にも多くの卒業生が顔を出してくれたが、驚くことに、さらなるスキルアップを目指して第二の職、第三の職と転職している者が多く、昔のように、同じ進路先ですっと働くわけではなくなってきたようだ。もちろん自分の進路は自ら拓いていくものであるが、本学科及び就職支援課では卒業生に対しても積極的に支援している。卒業後に困ったことがあれば、ホームグラウンドの「サガジョ」に戻り、是非相談して欲しいと思う。

みなさんの前途を祝し、これからのご活躍を祈念したい。卒業おめでとう。



(17.3 cm × 32.9 cm)



(36.1 cm × 52.5 cm)

相模女子大学での書道の学び

下田 章平

二〇二五年四月の入学より、日本語日本文学科では新カリキュラムが始まります。新カリキュラムでは、学科で学べる分野をよりわかりやすく一〇分野（日本古典文学、日本近現代文学、中国古典文学、日本語教育学、日本語学、伝統文化、現代文化、書道、図書館情報学・編集出版学、教職）に再編しました。大きな特徴として、学科のコア科目の履修を通じ社会人に必要となる基礎力を養成するなど、学科独自の就職対策につながるように編成しています。そして、コア科目を中心に、関心のある分野の科目を選択履修していくことになります。

本学の書道の授業は一年生からあり、段階的に学んでゆくこととなります。そして書道で卒業論文と卒業制作を希望する学生は、三年生から書道ゼミナールに入り、より専門的で高度な内容を学習します。また、新カリキュラムとなり、書道の分野でも実用書道や校外研修の科目が新設され、これまで以上に書道科目が充実することになりました。校外研修では、合宿や国内外の美術館・博物館で、墨蹟（肉筆）や拓本を間近で鑑賞したり、国会図書館や神田の古本屋街を巡ったりします。

書道ゼミナールでは、書道や文学に興味があり、中学校や高等学校で書写や書道を教えたいと思っている学生を歓迎します。他のゼミナールと異なるのは、卒業論文と卒業制作の二本立てで取り組んでいることです。授業では表現（書道実習）と鑑賞（書道史、書論、鑑賞）を主体とし、書の世界をさまざまな視点から深く学び、自らの感性や情操を磨き、自分らしい書を制作することを目標とします。そして毎年一月に開催される卒業制作展（併催 書道ゼミ三学年書作展）は本学の書道の学びの集大成として位置づけられます。受講生の卒業後の進路はさまざまですが、一般企業への就職に加え、最近は大学院へ進学したり、中学校や高等学校の先生になったりする受講生が増えています。本学にはさまざまな形態の入学試験（学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜等）があり、三月まで行われています。オープンキャンパス以外にも個人での学校見学、授業公開、学外での進学相談会も開催しております。詳しくは本学入試課にご相談下さい。

以下では、令和八年四月より、一般企業に就職する碓井瑞生さん（長野県野沢南高等学校出身）と、三ゼミ生の三坂百合菜さん（静岡県立裾野高等学校出身）の記事を紹介します。

一般企業に就職して

碓井 瑞生

私は小学校の頃から続けてきた書道を、より専門的に学びたいという思いから相模女子大学に入学しました。一、

二年次には、必修科目である古典文学や近現代文学に加え、楷書・行書・かなといった書道の実技の基礎を学びました。また、書道史や書論・鑑賞などの座学も履修し、書道に関する幅広い知識に触れることができたのは新鮮な経験でした。三年次からは書道ゼミナールに所属し、漢字かな交じりの授業で創作に取り組みました。これまでの手本を臨書する学習とは異なる制作方法に当初は苦労しましたが、定期的に開催される書道展での作品鑑賞や、先生方からの丁寧なご指導を通じて、着実に技法を身につけることができました。また、作品制作に加え、ゼミナールのメンバーたちと、夏合宿や京都、台湾への校外研修などの経験を通じて、書道に対する視野を広げることができました。

私は書道を専門的に学びましたが、書道科教諭ではなく一般企業への就職を選択し、三年次の半ば頃から就職活動を始めました。自己アピールや学生時代に力を入れたことについては、大学での書道の学びについて述べました。初めは書き方が全く分かりませんでした。就職支援課の職員の方に指導していただきながら、筆記試験対策や企業研究を続けました。内定をいただいた企業からは、物事に集中して取り組む力や継続力、そして作品制作で壁にぶつかりながらも自己研鑽を続けてきた姿勢を評価していただきました。

余談になりますが、書道だけでなく他の授業もしっかりと受講し、自分の興味関心を広げることを意識してみてください。その理由は、就職活動中に一般企業の最終面接で、「書道以外で興味を持った授業はないのか」と聞かれたからです。日本語日本文学科では一、二年次に履修した基礎科目の中で興味を持った分野を三年次では研究科目で選択することが可能です。様々な知識に触れるせつかくの機会となるので、ぜひ積極的に学び、専門分野以外の教養も深めてください。

卒業後は社会人として、大学で培った知識や物事にひたむきに取り組み姿勢を大切にし、常に向上心を持って取り組んでいきたいと考えています。

皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

三年の書道ゼミナール

三坂 百合菜

三年生のゼミナールでは、卒業に向けた授業に取り組んでいます。

「漢字かな交じり」の授業では、自分の好きな題材を選び、それに合わせて紙の大きさや紙面構成を決めていきます。選んだ題材に合った構成や字形を自分で考えたり、先生の指導を受けたりしながら、作品制作を進めていきます。臨書のようにお手本はありませんが、構成や字形など一か

ら考えることで、自分らしい作品を作り上げることができ
ます。

「作家・作品」の授業では、自分の好きな古典作品から
書きたい題材を選び、制作を行ないます。まず、選んだ古
典作品を半紙で全臨します。その後、先生と相談しながら
原寸臨書にするか拡大臨書にするかを決め、練習を重ねて
ゆき、作品の完成度を高めていきます。

「専門演習」の授業では、卒業論文の執筆に向けて研究
テーマを決め、大学図書館や国立国会図書館などで資料を
収集し、先生の指導を受けながら執筆を進めます。また、
東京や京都の研修では、実際に間近で作品を見ることで、
新たな学びを得て、卒業制作へとつなげることができま
す。

このように、三年次から卒業に向けた制作や論文執筆が
授業内で行われ、段階的に学び活動することで、四年次で

は作品の完成度を高めることができます。時間や労力を費
やしますが、その分書道に向き合うことができ、たくさん
の発見や学びを得ることができるゼミナールです。

◇お問い合わせ先

・ 本学入試課

○ 一〇一〇一八一六―三三三三

<http://www.sagami-wu.ac.jp>

・ 書道担当教員 下田 章平

研究室（一〇号館三二八研究室）

○ 四二―七四九―一四〇五（研究室直通）

s-shimoda@star.sagami-wu.ac.jp



* 日本語日本文学科の特色
などはこちらからご覧に
なれます。

書道 ゼミナール の1年

Start!!
6月



教育実習

7月



拓本研修

8月



山中湖合宿

Goal!!
3月



卒業式

12月



ゲストティーチャーの授業

10月



中間発表会

第五十一回卒業制作展図録

令和八年三月三日 印刷
令和八年三月三日 発行

編集・発行

相模女子大学学芸学部日本語日本文学科
〒二五二一〇三八三 神奈川県相模原市南区文京二一〇一

○四二一七四二一四一一

印刷所

(株)パワープランナー
〒一〇一〇〇三二 東京都千代田区岩本町三一十一一九

秋葉原下七イビルⅣ 八階

○三三八六六一八六六八

表具・写真

(有)美術表装岡忠
〒二四六〇〇二一 神奈川県横浜市瀬谷区二ツ橋一四〇一三五

○四五一三六二一六六一六